

名古屋大学名誉教授

田中 英一 先生

平成 47 年卒業(第 31 回)



近 況

東山会会員の皆様，本年 3 月 31 日をもちまして名古屋大学を定年退職いたしました田中英一でございます。在職中は大変お世話になり，誠に有り難うございました。定年まで務めることができましたのは，偏に皆様のご指導とご鞭撻のお蔭であると感謝いたしております。

学生時代や在職中の思い出等につきましてはすでに大学の広報誌に書きましたので，この会報では近況というタイトルで書かせていただきます。まずは定年退職直前の 3 月からです。退職直前の 3 月というと，教員生活の区切りとなる最終講義や，ともに働いた教職員の皆様との別れ，長年教育と研究の場であった居室の整理や引越等があり，ただでさえ感慨深いものですが，私の場合にはそれらに加えて以下のことがあり，生涯忘れられない 3 月となりました。

忙しいとの口実の下，在職中は毎年の定期健康診断をサボりがちで，しかも精密検査の指示があっても受診しないことが多かったのですが，妊娠中の娘が名大病院で診察を受けた際に，たまたま私のことが話題となり，急遽診ていただけることになりました。本人が知らないところで決められたことではありましたが意を決し，ついに 3 月 10 日に受診しました。その結果糖尿病と診断され，その他の成人病の疑いもあるということで，投薬を開始するとともに 2 週間の検査入院を勧められました。しかし，残りの在職期間が 3 週間しかなく，最終講義や引越の準備を控えていたことから，やむなく通院で精密検査を受けることにしました。以来，投薬と検査が現在に至るまで続いておりますが，お蔭で検査数値が改善し，いつ死んでもおかしくない状態（担当医師の言葉）から，病気だと自覚しないレベルにまで回復しました。今では思い切って診察を受けて本当に良かったと思っております。

私の受診のきっかけを作ってくれた娘は，3 月 25 日（卒業式の日です）に名大病院で男子（初孫）を出産しました。しかし，出産予定日を 1 週間過ぎていた上に，虫垂炎を併発していたことが混乱の元となって対応が遅れ，急遽帝王切開

と虫垂切除の手術を受けることになって、危機一髪のところでも事なきを得ました。

こうしたことが重なってスケジュール調整が破綻し、恒例の東山会新入会員歓迎会や、研究科、教室、研究室学生主催の送別会に参加できず、皆様に大変ご迷惑をお掛けしました。この場をお借りして深くお詫び申し上げます。スケジュール破綻の影響は居室の整理や引越にも及び、休日返上で頑張ったにも関わらず、結局3月31日の5時過ぎになってようやく一段落つきました。ということで教職員の皆様に離任の挨拶もできず、誠に申し訳なく存じます。そんな事情で3月はあっという間に過ぎ去り、翌4月1日から松下研究科長に紹介していただいた新しい職場に通うことになりました。火曜日まで名古屋大学に切れ目なく通い、翌日の水曜日から突然新しい職場に通うということで、何か整理がつかない戸惑いを感じたことを覚えております。

さて、新しい職場というのは厚生労働省所管の独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構が設置・運営する、東海職業能力開発大学校のことです。この学校は岐阜県揖斐郡大野町にあり、JR 東海の穂積駅から車で北へ30分ほど行ったところですが、ちょうど濃尾平野の終端に位置します。自宅から穂積駅までは名鉄とJR 東海を利用して比較的交通の便が良いのですが、大学校付近で利用できる公共交通機関がないため、穂積駅近辺に駐車場を借り、大学校まで自家用車を使って通っております。片道2時間前後かかります。朝5時に起きて6時頃の電車に乗り、夕方5時まで働いて7時半から8時頃に帰宅する毎日です。朝早いことと通勤時間が長いことで、毎日大変疲れます。しかも夜型の人間でしたから、毎日睡眠不足です。若ければ直ぐに慣れるのですが、年のせいか6ヶ月近く経ちますが未だに慣れません。

大学校では校長を務めております。学校の顔としての役割を果たすべく努力しています。着任した4月1日に新規採用者や転入者に対して辞令を交付し、4月7日には入学式で式辞を述べました。厚生労働省や高齢・障害・求職者雇用支援機構の地方組織、岐阜県庁、大野町、その他関連団体に赴き着任の挨拶をする、学校案内や新聞等に挨拶文を書く、地域や学校における様々な催しで挨拶をする、等の職務も遂行しています。また施設内で開催される多くの会議のほとんどすべてに出席し、そして大量の書類を毎日決裁しています。それらを通じて校内あるいはその上部機関である機構内で何が起きているのかを把握することができますが、同時に大学と大学校における基本的な仕組みや考え方の違いも思い知らされ、戸惑いを覚えると同時に欲求不満も蓄積されます。まだ着任後6ヶ月にも満たないいわば試用期間中の身の上なので、郷に入れば郷に従えの格言の通り、おとなしく職務を遂行しています。

さて、職業能力開発大学校（以下能開大と略称）がどのようなところか、おそらくほとんどの方がご存じないと思いますので、この機会に少しだけ説明させていただきます。この学校は、職業能力開発促進法という法律に基づき設置されており、北海道、東北、関東、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州、沖縄の各ブロックに1校ずつ、全国で10校あります。東海能開大は東海ブロック（愛知、岐阜、三重、静岡の4県）を担当しております。

能開大の業務は、1. 職業訓練の実施（高度技能者養成訓練，及び在職者訓練），2. 事業主等への援助（職業能力開発の相談・情報提供等，施設・設備の提供，指導員の派遣等），3. その他（職業訓練の実施に関する調査研究，地域貢献，その他）の3つに大別できます。主要業務である高度技能者養成訓練に対応するため，2つの課程が設けられています。主に高等学校新卒者を対象とする2年制の専門課程と，その専門課程修了者を対象とする2年制の応用課程です。専門課程は技術革新に対応できる高度な知識と技術に裏付けられた技能を有する人材の養成，応用課程は生産現場に密着した製品の企画開発から製作までの創造的・実践的なものづくり能力の習得を通じて，新製品の開発，生産工程の構築等に対応できる将来の生産技術や生産管理部門のリーダーとなる人材の養成を目的としています。参考のために申し上げますと，大学校は，先に述べたように学校教育法に基づく学校ではないのですが，公務員試験等においては，専門課程修了者は短大卒と同等の，応用課程修了者は4大卒と同等の資格を有するものとされています。

能開大の専門課程と応用課程の特色は，実験・実習を重視したカリキュラム，少人数教育，充実した設備等です。具体的に述べれば，東海能開大の場合，カリキュラムの中で実験・実習が占める割合は50%以上です。専門課程には生産技術，電気エネルギー制御，電子情報技術の3科，応用課程には生産機械システム技術，生産電気システム技術，生産電子情報システム技術の3科がありますが，各科の定員はいずれも20名から30名で，きめ細かく，丁寧な指導が可能となっています。実習に使用する旋盤やフライス盤も2人に1台以上あり，企業の現場を疑似体験できる最新鋭設備も備わっています。その他の機材も潤沢で，設備的にはかなり恵まれた環境にあります。今年の3月，文部科学省の有識者会議は，「専門職業大学」という新たな大学の類型を設けることを提言し，それをうけて文部科学省は，4月に実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度作りを中央教育審議会に諮問しましたが，職業能力開発大学校はある意味で，それを一層充実した形ですでに実現していると言えなくもありません。もちろん，能開大には座学の面で大きなハンディキャップがあるように思いますが。

着任後6ヶ月近く経ち，大学校には大学校なりの多くの課題があることがわかってきました。長年国立大学で過ごしてきた者には理解しがたい厚生労働省系の機構特有の文化があって，意見がかみ合わないこともしばしばですが，今後は私の手の届く範囲で，関係者と十分に協議しながら，改善を図っていきたいと考えております。少し長くなりましたが，これで近況報告とさせていただきます。